

香川県総合防除実践指標（キュウリ）

No.	予防	判断	防除	実践項目 対象病虫害・雑草	実践ポイント	点数	チェック欄	
							実施目標	実施状況
1	○			抵抗性品種等の導入	うどんこ病、褐斑病等の抵抗性品種を導入する。	1		
2	○			育苗圃周辺の管理	コナジラミ類、ハモグリバエ類、アブラムシ類、アザミウマ類等の侵入防止のため、周辺雑草を除去する。	1		
3	○			健全苗の育成	以下のいずれか又は両方を実施して健苗育成に努め、病気が発生した苗は早く処分する。 (一方の場合は1点、両方の場合は2点) ・適正な育苗スペースを確保し、育苗中の温湿度管理に注意する。 ・育苗圃周辺を防虫ネットで遮断し害虫の飛来を防ぐ。	1又は2		
4	○			本圃周辺の管理	コナジラミ類、ハモグリバエ類、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類等の侵入防止のため、周辺雑草を除去する。	1		
5	○			圃場の準備	太陽熱による土壌消毒を実施する。	1		
6	○				高畝にするなど排水対策を実施する。	1		
7	○			雑草対策	マルチなど化学農薬によらない雑草管理対策を実施する。	1		
8		○		病虫害発生予察情報の確認	病虫害防除所が発表する発生予察情報を入力し、確認する。	1		
9		○	○	防除要否の判断	コナジラミ類、ハモグリバエ類を対象に黄色粘着トラップを設置し、発生初期の防除に努める。	1		
10		○	○		アザミウマ類を対象に青色粘着トラップを設置し、発生初期の防除に努める。	1		
11	○			うどんこ病、 菌核病、 褐斑病、 斑点細菌病、 灰色かび病、 べと病、 炭疽病共通対策	換気をはかり過湿を防ぐ。	1		
12	○				被害植物が付着した支柱やハウス資材はよく消毒する。	1		
13	○		○		被害茎葉や果実は除去する。	1		
14	○		○	モザイク病、 つる割病、 キュウリ黄化えそ病、 疫病共通対策	発病株は見つけ次第除去する。	1		
15	○			モザイク病対策	圃場周辺にシルバーマルチまたは白黒マルチ、シルバーストライプマルチ、シルバーテープを設置してアブラムシ類の飛来を防ぐ。	1		
16	○		○		育苗時に生物農薬を使用する。(ZYMV)	1		
17	○			キュウリ黄化えそ病 (ミナミキイロアザミウマ)対策	媒介虫の防除を育苗期から徹底し、本圃に媒介虫を持ち込まないようにする。	1		
18	○				施設栽培では近紫外線除去フィルムで被覆する。	1		
19	○				シルバーマルチをする。	1		
20			○		有効薬剤を効果的に使用し、発生初期に集中的に防除する。	1		
21	○		○		栽培終了時に施設を密閉処理し媒介虫を死滅させ、ほ場外への分散を防止する。	1		
22	○			コナジラミ類、 ハモグリバエ類、 アブラムシ類、 アザミウマ類、 ワタヘリクロノメイガ 共通対策	ハウス開口部を防虫ネットで被覆し、成虫の飛来・産卵を防ぐ。 0.2～0.6mm目合い(コナジラミ類、アザミウマ類に有効)で被覆すれば4点。 0.8mm目合い(ハモグリバエ類に有効)で被覆すれば3点。 1mm目合い(アブラムシ類に有効)で被覆すれば2点。 4mm目合い(ワタヘリクロノメイガに有効)で被覆すれば1点。 0.4mm目合い以下のネットで被覆する際に、高温対策として遮光資材を利用すれば1点。	1～5		
23		○	○	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1		
24		○	○		当該病虫害・雑草に効果のある複数の農薬がある場合には、天敵など環境に影響の少ない農薬を選択する。	1		
25		○	○		適切な飛散防止措置を講じた上で農薬を使用する。	1		
26		○	○		病虫害の発生生態を充分認識した上、発生部位に農薬がかかるように散布する。	1		
27		○	○		作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。	1		
28		○	○		薬剤感受性検定の結果を確認し、当該地域の病虫害において薬剤抵抗性の発達が確認されている農薬は使用しない。	1		
29		○		作業日誌(重)	病虫害・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等の栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1		
(重)栽培管理状況について記録することは重要な実践ポイント。					34点、29ポイント	合計点数		
						合計実践ポイント数		
						評価結果		